

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078400175		
法人名	社会福祉法人 久英会		
事業所名	若久園グループホーム		
所在地	福岡県八女郡広川町新代1389-117 (電話) 0943-32-9060		
自己評価作成日	平成 23 年 11 月 10 日	評価結果確定日	平成 24 年 1 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「あるがままその人らしくその人らしくを大切に」という理念を基にして認知力低下の予防やADLの維持向上を図る為に、機能的自立度評価表（FIM）を取り入れ、それらを基に日々の活動やリハビリ、サークル等を行う事で機能の維持に繋がっている。

また、地域との交流にも力を入れており、近隣の子供達との触れ合いや行事参加の呼び掛け、地域の道路愛護に利用者を連れて参加したりしている。区長との話し合いの中で利用者の散歩の際に小学生の下校の見守りをして欲しいという要望もあり、可能な限り参加している。その他にも散歩の際にごみ拾いを兼ねる等の取り組みを行い、地域との交流に力を入れている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 23 年 12 月 9 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は国道に面した広大な敷地位置し、母体法人は以前から医療・介護の事業に携わっており、地域に根付いている。地域との交流を大事にしており、道路愛護や学生の体験学習の受入れ、行事への参加等で親交を図っている。運営推進会議も定着しており、家族の参加が多く、討議、提案等に加え、家族同士の親密なコミュニケーションの場にもなっている。利用者の共用空間でも、家庭的で居心地よく過ごせる配慮が見られる。職員も内部研修を中心に日々研鑽に努め、今求められるサービスを一丸となって追求している。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員共に理念に添った日々の営みを行う為に、月に1回の会議を行っている。また、職員全員参加の会議や勉強会（月1回）を行うことで、より良いサービスを提供出来るよう実践している。	地域密着型の視点での事業所独自の理念があり、理念の実践に向けて、ミーティングや会議などでも意識的に取り組んでいる。また、法人全体の朝礼が毎朝行われており、グループホームからも1・2名が出席し、理念の共有が図られている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に施設内行事の参加を呼び掛けたり、逆に地域親睦会への参加や回覧板届、道路愛護への参加、利用者を連れての地域ごみ拾いを行う等、特別な行事だけでなく日常的に関われるよう努めている。	町内会に加入し、道路愛護や清掃等の地域の活動や、秋祭り、そうめん流し等の行事等に参加している。事業所が行事を開催する際は地域住民へ声かけしている。近隣の小学校の福祉体験、保育園による七夕の慰問、短大・高校の実習受入等の他、顔馴染みの犬の散歩の方も立ち寄る等、良好な関係が作られている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事の際に認知症についての勉強会を行ったり、地域民生員との協力の下、地域の小学生を招待しておやつを一緒に作ったり、ゲームをしたりして認知症高齢者とのふれあいを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では御利用者様やサービスの状況経過、今後の方向性等についての報告や説明を行い、家族や来賓の方々との意見交換会を行っている。また、発生した事故の経過、対策等の説明や感染症等に関する対策、説明を行った。	利用者とその家族、市職員、地域住民代表らが参加し、運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。利用者やサービスの状況や評価に対する取り組み状況等を報告し、委員から出された様々な意見をサービス向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外にも、在宅支援センターや地域包括支援センターとの情報交換等にて支援時の協力関係を築いている。	市町村関係者とは運営推進会議を通して親交を図っている。地域包括支援センターとも日常的に連絡を取り合っている。行政に対する報告も逐一行っており、協力関係は築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して禁止となる具体的な行為を理解し、職員全員で拘束のないケアの実践に取り組んでいるが、脳梗塞・痛風にて入院された利用者の夜間の便失禁・自傷行為に対し、家族の承諾書をもらい、手作りのミトンを使用中である。	身体拘束に関する指針に基づき、日中、居室にも玄関にも施錠はせず、チャイム・センサー等を設置している。運営推進会議を通して地域住民にも声かけなどを行っている。マニュアルを備えており、内部研修を実施し、研修記録がある。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、身体的な虐待だけでなく言葉や態度による虐待についても職員全員が理解し、虐待が起こらないように、また、見過さないよう表情や身体の状態などに注意を払うように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が地域権利擁護や後見人制度についての研修に参加し、ホーム内で全職員で勉強会を行い理解すると共に必要な時に活用できるように支援している。	制度に関しては契約時に利用者・家族に説明している。パンフレットを備え、内部研修を行っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前から本人や家族と十分に話す機会を設けて説明を行い、不安や疑問を解消して頂けるよう努めている。実際にグループホームでの生活の様子を見て頂き、他の御利用者様とも話をして頂く事により本人、家族に納得して頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に運営推進会議の中で職員も交えて雑談の時間を取ったり、バーベキューなどの食事を開催する事で意見や要望を言い易い雰囲気作りを行っている。また、その中で出た意見要望については、すぐに反映できるように取り組んでいる。	運営推進会議には利用者・家族が出席し、意見を出す機会がある。意見箱を設置し、苦情の申し出先についての説明も繰り返し行っている。利用者や家族から出された意見は、運営に反映されている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営や大事な決定事項に関して、職員の意見を反映させてもらっている。年に2回目目標の設定があり、結果報告を行ったり、月に1回会議を設け意見を出し合っている。	管理者は、個別面談等を通して、職員が意見を言いやすい雰囲気づくりに努め、楽しんで仕事に従事できるような配慮を行っている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職群転換制度を取入れ、人事評価の結果により準職員から正職員に転換できる。また、賞与については半年毎の評価によって反映されている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集に関しては性別や年齢等を理由に採用するのではなく、きちんと面接を行い採用を行っている。働く職員に対しても能力を発揮し、自己実現の権利が十分に保障されるように昇給制度だけでなく、準職員の正職員登用制度などを取り入れ配慮している。	採用選考時には、性別や年齢等を理由に対象から排除する事はない。定年も65歳としており、また、職員の資格取得の支援にも前向きで、安心して働ける職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎日の朝礼や、会議・勉強会等で情報を収集した事柄についての意見や、介護上の問題点についてアドバイスを行ったりして人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	福岡県・労働局・ハローワーク作成のテキストを基に、職員に対して内部研修を行い、人権教育に努めている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる為に、法人での月1回の勉強会やホームでの勉強会など計画を立て実施されている。又、グループホーム部会での勉強会が2ヶ月1回行われ自主的な参加があり、全職員で取り組みがなされている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会への参加を行う事で他施設の職員と意見交換や交流を図る事ができ、サービスの質の向上に繋がっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の相談、面談の際に本人が何に困り、不安で今後どのような生活を送りたいのかを本人自身と家族からじっくり聴く機会を設けている。また、入所後も本人の不安や希望等を話せる時間を作り、本人の安心に繋がるよう勤めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談については、ご家族様の都合に合わせて時間を作って対応している。内容についても十分に対応できる職員をあてている。また、御利用者様を前に相談し難い場合には家族に対し個別に話を聞いている。御利用に対しても同様な対応に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や見学に見えた時に本人や家族が困っていること、どうしたいのかを尋ねながら色々なサービスを紹介し選択してもらう方法を取っている。又、地域のケアマネジャー、地域の在宅支援者、民生委員などとの連絡を取りながら支援を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共にしながら生活しているので、笑いが絶えない。又、家族の面会も居室だけでなく、ホールで一緒に過ごして行かれる。研修生や見学に来られたお客様からも非常に雰囲気が良いとお褒めの言葉を頂いている。食事の準備や後片付けなど一緒に行っている。私達職員も本人様の長年の経験、知識を日常会話や行事等で教えてもらっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への面会の声掛け、誕生会等の行事への参加の呼びかけ等行い、家族が本人と関わって頂けるように努めている。また、病院への受診や本人を連れての外出などに協力をして頂き本人の楽しみとなっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御利用者様の希望を聞き、理容室、買い物等本人の馴染みの場所への外出等を行い、本人の希望を叶えていくと共に関係が途切れないよう努めている。また、遠方などの理由により面会が難しい方については手紙、電話を行いグループホーム新聞「その人らしく」を家族以外の方にも送るなど関係の継続に努めている。	管理者・職員は、利用者の馴染みの人や場所を把握している。近所の友人が訪ねて見えたり、「今までの美容室に行きたい」「あの店の唐揚げが食べたい」等の利用者の要望を大切にし、利用者の馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士で関わり合いを持ち、必要に応じてお世話をされたりしている。孤立している場面があれば御利用者様同士が関わりあえるよう職員が間に入るなどし、居室に1人で籠ったりする事がないよう努めている。行事等は強制ではないが、全員参加を基本としている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した御利用者様に皆で面会に行ったり、併設施設に転居された方への面会を行ったりし、環境の変化による本人の負担を少しでも軽減できるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や関わりの中で思いや希望等を聞き出せるように心掛け把握に努めている。意向を表出する事が難しい方については生活歴等を参考にし、本人本位の支援が出来るように努めている。	職員は、利用者一人ひとりの希望や意向を利用者の言葉や表情、行動等から把握するように努めている。意志疎通が困難な利用者には、家族から聴取した生活歴を参考にし、本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートの作成や情報提供書などを用い生活歴や生活環境、サービス利用の経過等の把握に努めている。また、家族からの情報や御利用者様に個別に意見交換ノートを用意し、本人や家族との情報交換を行い、生活歴等の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの1日の過ごし方、心身状態の個別記録を行い、状態の把握に努めている。有する力については主観的な現状把握だけでなく、FIM（機能的自立度評価法）を取り入れることによりADL（日常生活動作）を客観的に状態把握をし、統一した処遇が出来るよう努めている。NST・MMS評価を導入し、状態把握の精度アップを図っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を取り入れ計画書の作成を行っている。毎月支援経過を家族に報告し、家族からの意見や状態の変化等を反映させ計画の変更を行い、本人がより良く生活出来るよう介護計画書の作成を行っている。	介護計画は、本人及び家族の意向や希望を取り入れ、全職員の意見や気付きも含めて作成している。また、6カ月に1回、また利用者の状態変化や状況に応じて、随時介護計画を見直している。作成後は家族へ説明し、署名・押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気付き等を毎日個別記録に記入し、普段と様子が違う事があれば一目で分かるように青で記録をしている。また、申し送り等で情報を共有し、日々の介護に活用できるよう努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への受診や個人的な買い物についていつでも柔軟に対応出来るよう体制をとっている。また、外出等については本人の要望や天候、体調を考慮して臨機応変に対応出来るようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	役場職員、民生委員、区長出席による運営推進会議を開催している。また、区長、民生委員の来園時、個別にて相談、談話の機会を設けている。行事開催時、地域の学生等のボランティアによる援助も受けている。警察・消防・役所との連携もとれており、災害時の避難場所として当ホームの敷地の提供も行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望されるかかりつけ医を受診して頂いている。また、希望があれば協力病院等の受診の紹介を行っている。付き添い時の介助方法や情報の伝達等は、職員・看護師よりその都度行っている。	利用開始前に利用者一人ひとりの受診経過や希望を把握している。希望する医療機関の受診だけでなく、事業所の協力医療機関での受診も確保し、利用者・家族が選択できるようにしている。受診時の情報伝達方法について家族と話し合って合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間、看護師や協力病院との連携を確立しており、受診の相談はいつでも可能である。また、担当の看護師による健康管理面でのチェック、個別での相談等も行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が発生した場合、協力病院・医師・看護師・職員・家族による情報交換や相談、計画をできる準備、体制は整っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体力や機能の低下が見られ、入院等が今後必要になりそうな場合には、早い段階で本人や家族に話し、事業所で出来る事、事業所では難しい事を十分に説明し、病院等と相談しながら支援を行っている。	重度化・終末期や看とりまで事業所の対応方針があり、明文化している。早い段階から状況変化時には、本人、家族、主治医、全職員で話し合って方針を共有し、支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	怪我、骨折、発作、喉つまり、意識不明の対処方法についての勉強会も行っているが、実際に事故が発生した時に状態の説明し、対処方法についてその都度指導を行っている。また、夜間等人出が少ない時の応急手当、対応方法、連絡についても職員が熟知している。母体の協力も受けられるような対応もなされている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害時の訓練については、消防署や併施設等の協力を得ている。また、避難経路は2箇所を確保している。設備点検については定期的に業者に行ってもらっている。	マニュアルを作成し、年2回、消防署協力による避難訓練と自主訓練を実施している。訓練には、運営推進会議で地域住民に参加を呼びかけている。非常用食品・飲料水・備品は外の倉庫に備蓄している。	
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に十分に配慮し、プライドを傷つけないように声掛けや対応に当たっている。個人情報に関しては家族、本人以外への開示を避け、個人情報漏えいの防止に細心の注意を払っている。	職員は利用者の気持ちを大切にし、さり気ないケアを心がけている。また、研修等で職員の意識向上を図り、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お手伝いやレクリエーション、日常生活を送って頂く中で、一方的な援助でなく、本人に選択して頂けるような声掛け、活動提供を行い、自己決定を行えるよう支援している。本人の自己決定が難しい方については、プライドを傷つけない対応に気掛け思いを表出できるように支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の自主性や希望を尊重し、職員の業務に合わせ生活して頂くのではなく、食事の手伝いや花の水やり、洗濯たたみ、縫い物、新聞読み、絵を描くなど自分の時間を大切に過ごされている。また、散歩やドライブ、買い物なども御利用者様の希望を可能な限り優先して提供し、希望に添えるよう努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回の訪問理容を実施し、カット等の対応を行っている。また、慣れ親しんだ理美容院の利用希望があれば家族の協力、職員により対応を行っている。衣類に関しても好みの衣服を着用し、自主性を尊重している。また、外出時には化粧をして頂くようにし、オシャレが出来るよう努めている。特に誕生会などの皆が集まる行事には化粧をして参加して頂けるよう努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や自分たちで育て収穫した野菜を使用し食事の提供を行っている。食事の準備、盛り付け、片付け等を御利用者様と一緒に役割を持って生活して頂けるよう努めている。また、誕生会や外出行事では手作りの料理や弁当なども提供し食事を楽しみの一つと思って頂けるよう工夫している。食器に関しても使い慣れたものや好みの物を使用している。	職員と利用者は、一緒に準備や食事、片づけを行っている。職員は、利用者と一緒に会話しながら見守り及び介助をしている。事業所の菜園で育てた野菜も利用し、好みを聴きながらメニュー作りをしている。定期的に誕生会や調理実演会等を実施し、楽しみの1つになっている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の病状や身体状態に応じた食事、水分の摂取量を職員が把握している。又、食札に減塩、糖尿などと記録し、利用者に間違った食事が提供されないように注意し、配膳前に食札を外すようにしている。又、好みや食べたい料理など尋ねながら調理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の手入れの必要性を職員が把握しており、御利用者様全員に毎食後、又必要に応じてブラシ、スポンジケアなど行い、必要物品を準備し指導したり介助を行っている。又、歯科訪問を依頼し治療や指導を受けている。週に2回はポリドントにつけ、洗浄を行い記録している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、失禁を軽減する為に時間帯での排泄介助を行っている。	各居室にトイレがあり、職員は利用者の排泄パターンや習慣を把握しており、トイレでの排泄に向けた誘導・支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防については薬物のみならず、個々に応じた食事や運動、腹部マッサージなどを行っている。又、水分チェック表を記入し、水分量を調整して便秘の改善に努めている。医師や看護師にも相談しながら対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	毎日入浴を行い、本人の気分等を考慮し希望を受け入れながら入浴を行っている。入浴時の不安、羞恥心、プライバシーに対する配慮を行い、一人ひとりに合った入浴を実施している。また、他の御利用者様と一緒に入浴を希望する方については安全に留意し、一緒に入浴し楽しませている。入浴を拒む御利用者様に対しては、言葉掛けの工夫や職員の連携によって入浴をして頂いている。	利用者の希望を受け入れながら、毎日入浴を行っている。入浴を拒否される場合には、言葉かけ等誘導にも工夫し、利用者が入浴を楽しむことができるように支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や疲労等に応じて休息を取って頂き、日中を活動的に過ごして頂けるよう配慮している。また、日中の傾眠に気を付け昼夜逆転にならないよう活動への参加等を促し、夜間の安眠に繋がるよう努めている。夜間眠れない方に対しては、お茶の提供や談話等をし眠くなるまで過ごして頂いている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の内容(目的、用量、用法、副作用)について把握できている。特に風邪等の臨時薬を内服する方については、検温や症状等をこまめに記録し変化を確認している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴や能力を把握し、お手伝い等の役割を持って過ごして頂いている。また、本人にとって何が楽しみとなるのか理解を深められるよう普段の関わりから気掛け楽しさを把握できるよう努めている。また、毎日取り入れている百人一首の朗読や散歩やレクリエーション以外にも慰問や行事等に参加して頂き、気分転換に努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に2回の外出行事、毎日の散歩の他に個人の希望にそって外出、買い物、美容室等にも行っている。外出行事については普段の会話の中から希望の場所を聞き出し、外出先に取り入れている。	利用者の体調や希望に応じて、雨天以外、殆ど毎日散歩に出掛けている。利用者の希望・意向を図りながら、外食や買い物、季節毎の花見等、ドライブを兼ねて外出支援を行っている。家族の協力も得られている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭の所持は控えてもらっているが、普段希望があるが管理が出来ない方については小銭等を所持して頂きお金を持つ安心感を持って頂いている。また、外出や買い物に行く際は個人のお小遣いを所持して頂き、自由に買い物をして頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族への電話等を取り次ぎ対応している。手紙のやり取りは手紙を書くこと自体が難しい方が多い為、職員が活動内容や御利用者様の状態、様子等をグループホーム新聞「その人らしく」に載せ、連絡を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、利用者と共に作成した季節に応じた装飾を行い、また、行事や外出時の写真を定期的に掲示・貼り換えを行っている。また、華道サークルにて四季折々の花を使っている作品を展示することで居心地の良い、家庭的な空間作りに努めている。ホーム内は和室・手摺・マッサージ機・ソファ・仏壇を設置し利用者の生活にプラスとなるよう努めている。	リビングの壁には、利用者と職員と一緒に作った絵巻、宮沢賢治の詩や、イベント時のスナップ写真等が展示されている。また、各箇所に事業所内で行っている華道サークルで活けた生花があり、明るくゆったりと、居心地良い共用空間になっている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は共有スペースを中心とした個室となっており、人の気配を感じながらも一人で過ごすことができる。また、静養室としての和室にはテレビ・コタツを設置し、2・3人で過ごせるスペースを提供している。居室の場所や共有スペースでの席位置は利用者の状態や利用者間の関係を考慮し配置している。マッサージ機やメドマーを設置し、利用者の居場所作りにプラスとなるよう努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	床頭台は設置しておらず、ベッドとタンス以外はプロマイド・家族の写真・タペストリー・人形・本等の本人が使い慣れた物や好まれる物を使用している。また、希望によりテレビ・仏壇等を持ち込まれ、精神的な安定が図られ、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	利用者の意向と家族の協力で、仏壇やテレビ、寝具等の馴染みの物が持ち込まれている。家族の写真や誕生祝の写真に囲まれ、その人らしい、安心して過ごせる居室づくりになっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室内は個々の身体機能を最大限に活かし、且つ、危険を最小限とする為、ベッドや家具の配置を行っている。共有部分に関しても、作業し易い台所の高さや物干しの高さにしたり、キャスター付きの机のキャスターを敢えて固定したり等の環境整備に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員共に理念に添った日々の営みを行う為に、月に1回の職員全員参加の会議や勉強会（月1回）を行うことで、より良いサービスを提供出来るよう実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に施設内行事の参加を呼び掛けたり、逆に地域親睦会への参加や回覧板届、道路愛護等への参加、利用者を連れての地域ごみ拾いを行う等、特別な行事だけでなく日常的に関われるよう努めている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事の際に認知症についての勉強会を行ったり、地域民生員との協力の下、地域の小学生を招待しおやつを一緒に作ったり、ゲームをしたりして認知症高齢者と触れ合う機会をもうけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症やアクシデントについての予防や対策等も報告し参加者に意見を求めたりしサービスの向上・運営推進会議の充実を図っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外にも、在宅支援センターや地域包括支援センターとの情報交換等にて支援時の協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵を掛ける事の弊害を理解し、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。夜間帯の見守りが少ない時や不穏により階段からの転倒等の身体への危険が及びそうな場合のみ鍵を掛け対応を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員が情報を共有し問題点や解決方法等についての話し合い、職員がお互いにストレスを溜め込むことなく何事も話し合える環境作りに努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	計画的に職員勉強会を行っており、制度の理解と共に必要な時に活用できるように支援している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所される際はホームの見学、理念などの説明を行い、パンフレットを配布してご家族で検討してもらい、ご家族様に入居を決めていただき入居が確定した上で契約を行っている。又、契約の際は十分な説明を行い、理解・納得を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に運営推進会議の中で職員も交えて雑談の時間を取ったり、バーベキューなどの食事会を開催する事で意見や要望を言い易い雰囲気作りを行っている。また、その中で出た意見要望については、すぐに反映できるように取り組んでいる。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営や大事な決定事項に関して、職員の意見を反映している。月に1回会議を持ち意見を出し合っている。母体の施設長との面談も行われていて、意見を述べている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職群転換制度を取入れ、人事評価の結果により準職員から正職員に転換できる。また、賞与については半年毎の評価によって賞与に反映されている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集・採用にあたっては公平な態度で臨んでいる。配置については、本人の希望を取り入れた配置を行い、安心して働けるよう指導者をつけ新人教育行っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎日の朝礼や、会議・勉強会等で情報を収集した事柄についての意見や、介護上の問題点についてアドバイスをしたりして人権教育・啓発活動に取り組んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での月1回の勉強会の実施・ホームでの勉強会など計画を立て実施されている。又、グループホーム部会での勉強会に参加している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会への参加や、法人でのフォーラム参加・併設施設合同の勉強会などに参加できる機会があり、職員が参加できる仕組みが整っている。また、参加できない場合はホーム内での個別指導に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・ご家族の意向を普段から聴けるように気掛け対応している。ご利用者の状況・状態を把握し、職員が意見交換しながら統一した対応を行っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談については、ご家族様の都合に合わせて時間を作って対応している。内容についても十分に対応できる職員をあてている。又、内容によっては、本人様と御家族様に分けての対応が必要であれば区別して対応している。御利用に当たっても同様な対応に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や見学に見えた時に本人や家族が困っていること、どうしたいのかを尋ねながら色々なサービスを紹介し選択してもらう方法を取っている。又、地域のケアマネージャーや地域の在宅支援者、民生委員などとの連絡を取りながら支援を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や片付け・洗濯等を一緒にに行いながら喜怒哀楽を共にし生活している。様々な場面でご利用者様の経験談などから学ぶ事が多々ありお互いに支え合うことができています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への面会の声掛け、誕生会等の行事への参加の呼びかけ等行い、家族が本人と関わって頂けるように努めている。また、病院への受診や、本人を連れての外出などに協力をして頂き、本人の楽しみとなっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御利用者様の希望を聞き、理容室、買い物等本人の馴染みの場所への外出等を行い、本人の希望を叶えている。また、遠方などの理由により面会が難しい方については手紙、電話を行いグループホーム新聞「その人らしく」を家族以外の方にも送るなど関係の継続に努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している場面があれば御利用者様同士が関わりあえるよう職員が間に入るなどし、居室に1人で籠ったりする事がないよう努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した御利用者様に面会に行ったり、併設施設に転居された方への面会を行ったりし、環境の変化による本人の負担を少しでも軽減できるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や関わりの中で思いや希望等を聞き出せるように心掛け把握に努めている。意向を表出する事が難しい方については生活歴等を参考にし、本人本位の支援が出来るよう努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時家族からの聞き取りにてフェースシートの作成や情報提供書などを用い生活歴や生活環境、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとり1日の過ごし方、心身状態の個別記録を行い状態の把握に努めている。有する力についてはFIM（機能的自立度評価法）を取り入れることによりADL（日常生活動作評価表）を数値化することで客観的な状態把握ができ、統一した処遇が出来るよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を取り入れ、計画作成を行っている。毎月支援経過を家族に報告し、家族からの意見や状態の変化等を反映させ計画の変更を行い、本人がより良く生活出来るよう介護計画の作成を行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子、ケアの実践・結果等をケースに記録している。また、特記事項に関しては青ペンにて色分けし記録を行っている。職員会議等にて情報交換、情報の共有化を図り、より良い介護計画、介助方法の見直し、実践に努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への受診や個人的な買い物についていつでも柔軟に対応できるよう体制を取っている。また外出等については本人の要望や天候、体調を考慮して臨機応変に対応できるようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	役場職員、民生委員、区長出席による運営推進会議を開催している。行事開催時は地域の学生等のボランティアによる援助も受けている。警察・消防・役所との連携もとれており、災害時の避難場所として当ホームの敷地の提供も行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望されるかかりつけ医を受診して頂いている。また、希望があれば協力病院等の受診の紹介を行っている。付き添い時の介助方法や情報の伝達等は職員より、その都度説明を行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間、看護師や協力病院との連携を確立しており、受診の相談はいつでも可能である。また、担当の看護師による健康管理面でのチェック、個別での相談、又、家族への情報提供やアドバイス等の支援も行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が発生した場合、協力病院・医師・看護師、職員、家族の3者による情報交換、相談、計画ができる準備、体制は整い実践できている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体力や機能の低下が見られ、入院等が今後必要になりそうな場合には、早い段階で本人や家族に話し、事業所で出来る事、事業所では難しい事を十分に説明し、病院等と相談しながら支援を行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	怪我、骨折、発作、喉つまり、意識不明の対処方法についての勉強会も行っているが実際に事故が発生した時に状態の説明、対処方法についてその都度指導を行っている。また、夜間等人手が少ない時の応急手当、対応方法、連絡についても対応出来るようマニュアルを作成し勉強会を行っている。。母体の協力も受けられるような対応もなされている		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練については、消防署や併設施設等の協力を得ている。又、避難路の確保が出来ている。設備点検については定期的に業者に行ってもらっている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーチェックや人権教育・プライバシーの保護に関する勉強会を実施し、理念に沿った介護を意識しながら業務にあたっている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力に応じた言葉掛けをすることで、本人の意向、希望を引き出せるように努めている。また、何気無い仕草や言葉を見逃さず、聞き逃さぬようにし希望を汲み取れる様に努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の手伝いや花の水やり、洗濯たみ、縫い物、新聞読み、絵を描くなど自分の時間を大切に過ごされている。また、散歩やドライブ、買い物なども御利用者様の希望を可能な限り優先して提供し、希望に添えるよう努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回の訪問理容を実施し対応している。また、慣れ親しんだ理美容院の利用希望があれば家族の協力、職員により対応を行っている。衣類に関しても自主性を尊重し衣服の乱れがあればさりげなく直す様にし尊厳を守れるよう配慮している。日頃から化粧されているご利用者様もおられる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や自分たちで育て収穫した野菜を使用し食事の提供を行っている。食事の準備、盛り付け、片付け等を御利用者様と一緒にしている。また、誕生会や外出行事では手作りの料理や弁当なども提供し食事を楽しみの一つと思ってもらえるよう工夫している。食器に関しても使い慣れたものや好みのものを使用して頂いている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分の摂取量の把握や状態に合わせおかゆや刻み等の食事形態にて提供している。又、好みや食べたい料理など尋ねながら調理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御利用者様全員に毎食後能力に応じた方法で口腔ケアを行い義歯を使用している方については義歯の洗浄も行っている。又、歯科訪問を依頼し治療や指導を受けている。週に2回はポリデントにつけ洗浄を行い記録している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄確認表にて排泄パターンを把握し、失禁の軽減に努めている。また日中のリハビリパンツから布パンツへの移行に力を入れている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防については薬物のみに頼らず、個々に応じた食事や運動、腹部マッサージなどを行っている。水分摂取量を記録し、便秘の予防・改善を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	行事等以外は毎日入浴を行い、希望を受け入れながら入浴を行っている。入浴時の不安、羞恥心、プライバシーに対する配慮を行い、一人ひとりに合った入浴を実施している。入浴を拒む御利用者に対しては、言葉掛けの工夫や職員の連携によって入浴をして頂いている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や疲労等に応じて休息を取って頂き日中を活動的に過ごして頂けるよう配慮している。また、日中の傾眠に気を付け昼夜逆転にならないよう活動への参加等を促し、夜間の安眠に繋がるよう努めている。夜間眠れない方に対しては、お茶の提供や談話等をし眠くなるまで職員と一緒に過ごして頂いている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の内容について把握できている。又薬剤の説明内容の記録も保管しており、いつでも閲覧できる様にしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴や能力を把握し、お手伝い等の役割を持って過ごして頂いている。また、本人にとって何が楽しみとなるのか理解を深められるよう普段の関わりから気掛け楽しみを把握できるよう努めている。また、毎日取り入れている散歩やレクリエーション以外にも慰問や行事等に参加して頂き、気分転換に努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に2回の外出行事、毎日の散歩の他に個人の希望にそって外出、買い物、美容室等にも行っている。外出行事については普段の会話の中から希望の場所を聞き出し、外出先に取り入れている。また、これらの事に関して家族の協力も得られている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて所持してもらっている。普段希望があるが管理が出来ない方については小銭等を所持して頂きお金を持つ安心感を持って頂いている。また、外出や買い物に行く際は個人のお小遣いを所持して頂き、自由に買い物をして頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族への電話等を取り次ぎ対応している。手紙のやり取りは手紙を書くこと自体が難しい方が多い為、職員が活動内容や御利用者様の状態、様子等をグループホーム新聞「その人らしく」に載せ連絡を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、利用者と共に作成した季節に応じた壁画や壁飾りでの装飾を行い、また、行事や外出時の写真を定期的に掲示・貼り換えを行っている。また、華道サークルにて四季折々の花を使つての作品を展示することで居心地の良い、家庭的な空間作りに努めている。家族にも、面会時に楽しんで頂ける空間作りを行っている。ホーム内は和室・手摺・マッサージ機・ソファ・神棚を設置し利用者の生活にプラスとなるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	静養室にはテレビ・コタツを設置し2・3人で過ごせるスペースを提供している。居室の場所や共有スペースでの席位置は利用者の状態や利用者間の関係を考慮し配置している。マッサージ機やメドマーを設置し、自由に過せる空間になっており利用者の居場所作りにプラスとなっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	床頭台は設置しておらず、ベッドとタンス以外は家族の写真・人形・本等の本人が使い慣れた物や好まれる物を置いている。また、希望によりテレビ・仏壇等を持ち込まれ、精神的な安定が図られ、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室内は個々の身体機能を最大限に活かし、且つ、危険を最小限とする為、ベッドや家具の配置を行っている。共有部分に関しても、作業し易い台所の高さや物干しの高さにしたり、キャスター付きの机のキャスターを敢えて固定したり等の環境整備に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない